

大迫高校通信



日本一礼儀正しい学校

岩手県立大迫高等学校 情報誌

銀河の森

galactic forest

2023年
3月特集号



満天の星空が広がる大迫。この地で学ぶ高校生も一人ひとりが違う輝きを放つ。
早池峰の麓で、自然も人も輝く大迫は、まるで銀河の森だ。

回覧

令和4年度大迫高校卒業式

19名 天神ヶ丘の学び舎 巣立つ



令和5年3月1日(水)大迫高等学校第73回卒業証書授与式が挙行され、19名の生徒が巣立ちました。コロナ禍の中での高校生活でマスク着用が当たり前だった生徒たちの笑顔が光る卒業でした。

今年度は3年ぶりに在校生も卒業式にリモートで参加し、卒業を祝いました。今年も在校生有志と宿場の雛祭実行委員会の皆様とで飾り付けた雛飾りに見守られ、大迫らしい和やかで感動的な式となりました。



答 辞

早池峰の残雪を照らす日差しにも暖かさを感じられる季節となりました。本日は、私たちの為に、このような素晴らしい卒業式を挙げて頂き、心より感謝申し上げます。また、御来賓の皆様、校長先生、在校生代表からの暖かいお祝いの言葉に、卒業生を代表して心から御礼申し上げます。

今この式場に立ち、思い出されることは、三年前のコロナ禍のなかでの入学式です。私達は今日と同じように、この体育館で入学を祝って頂きました。入学後は、たくさんの方が制限され、思うように行事や部活動が出来ませんでした。しかし、

そんな状況の中でも、大迫高校は少人数であることを活かし、工夫を凝らして多くの行事を行ってきました。球技大会や迫高祭、地域と連携した二十歳のワインプロジェクト、さらには県内のほとんどの高校が中止や延期をした修学旅行の実施など、できることは何なのかどうやったらできるのかを常に考え、それを実現してきました。必ずしも万全とは言えない環境の中、このような活動を行うことができたのは、間違いなく家族や先生方、地域の方々の御助力があったからです。

三年生になると、感染症は収まらないものの、行動制限が緩和され、私達の活動は一気に活発になりました。不安と期待が交錯する中、私達は、自分自身の進路実現に向けてそれぞれが懸命に取り組んできました。

学校行事では、釜石や大槌など沿岸地域との交流やいわて小規模校さみっとでの県内各地の高校との交流も生まれました。ベンチプロジェクトやはやちね田舎マルシェとのコラボレーション企画、地域みらい留学生徒募集活動など、地域の方々との交流を通して、自分たち高校生にできることがたくさんあることを知りました。その中でも私を大きく成長させてくれたものに大償神楽の弟子神楽としての活動があります。ユネスコ無形文化遺産という存在を最も身近で感じる事が出来たのは、大迫高校生だったからだ胸を張って言うことができます。

もちろん辛いことや苦しいこともありました。しかし今、三年生十九名は、全員そろって四月からの新たなスタートラインに立つことができている。私たちは、この三年間で、どんな状況や逆境にあっても、工夫や協力で必ず乗り切ることが出来るということを学びました。この充実した経験を在校生の皆さんにも、ぜひ受け継いでほしいと願っています。

私達迫高生は一人ひとりが主役です。自分にできることに全力で取り組むことで、自分が成長し、たくさんのかげがえのない仲間という宝物を得ることができます。

「自分の人生は自分のものだ」と教えてくれたこの学び舎での生活を終え、これから私達は未来に向かって、一歩ずつ自分の足で歩いていきます。困難なことも、逃げ出したくなることもあるでしょう。そんな時は、私達を暖かく見守ってくれた家族、いつも励まし、時には厳しく指導してくれた先生方、応援してくれた地域の方々のことを思い出し、どんな艱難も必ず乗り越えて見せます。

最後になりましたが、この学校生活を支えてくださった全ての方に、改めて感謝申し上げます。私達を育ててくれた大迫高校の益々のご発展をお祈りし、答辞といたします。

令和五年三月一日

卒業生代表 晴山 颯真

